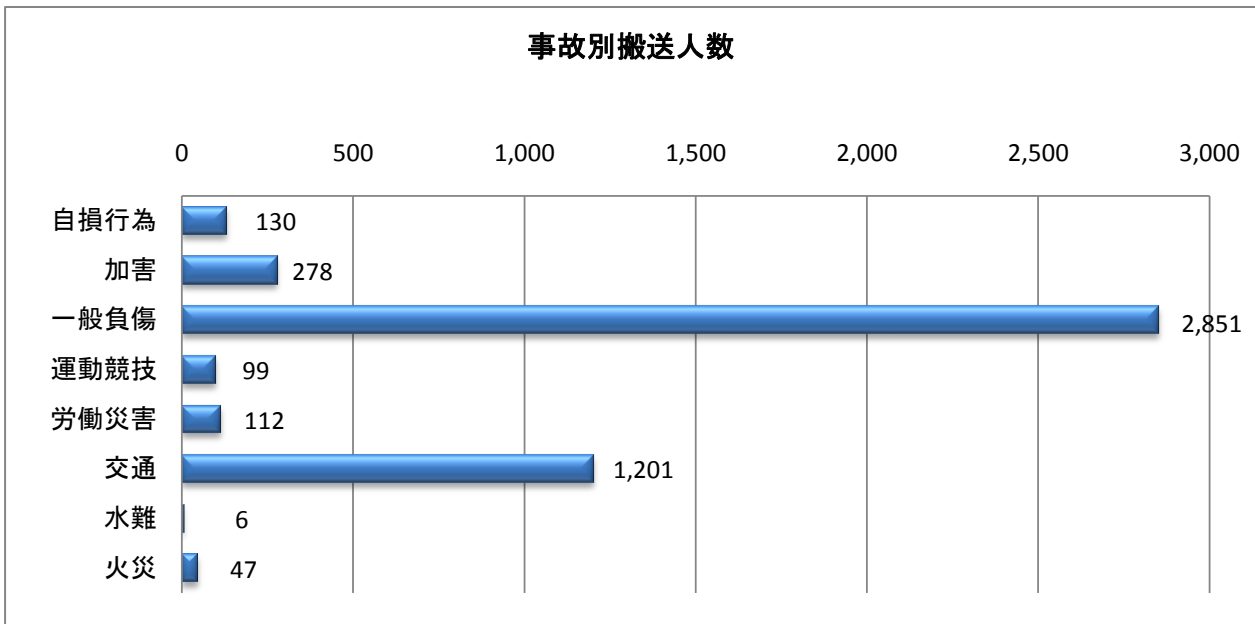


### 救急搬送データからみた豊島区全体の外傷原因の実態と特徴

この分析は、2008年中の豊島消防署及び池袋消防署による救急搬送人数(16,054人)のうち、外傷に、搬送人数(豊島区内への出場に限る)を抽出した4,724人分の外傷データに基づくものです。

◆ 事故種別ごとの搬送人数

搬送人数が最も多いのは一般負傷(2,851人)です。次いで交通事故(1,201人)、加害(278人)が続いています。



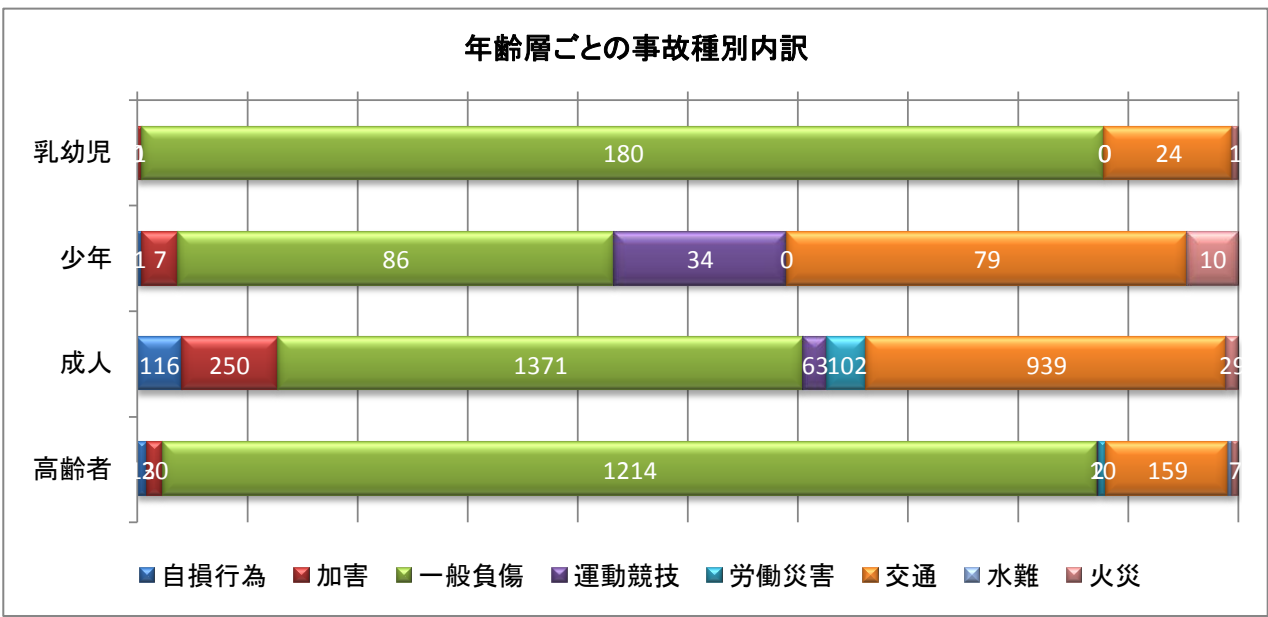
◆ 年齢層ごとの事故種別による内訳

年齢層ごとの事故種別の内訳をみると、全年齢を通じて一般負傷が最も多くなっています。特に乳幼児(0～6歳)及び高齢者(65歳以上)において一般負傷の割合が高くなっています。

第2位も、全年齢共通で交通事故ですが、特に少年(7～17歳)及び成人(18～64歳)において、交通事故の占める割合が高くなっています。

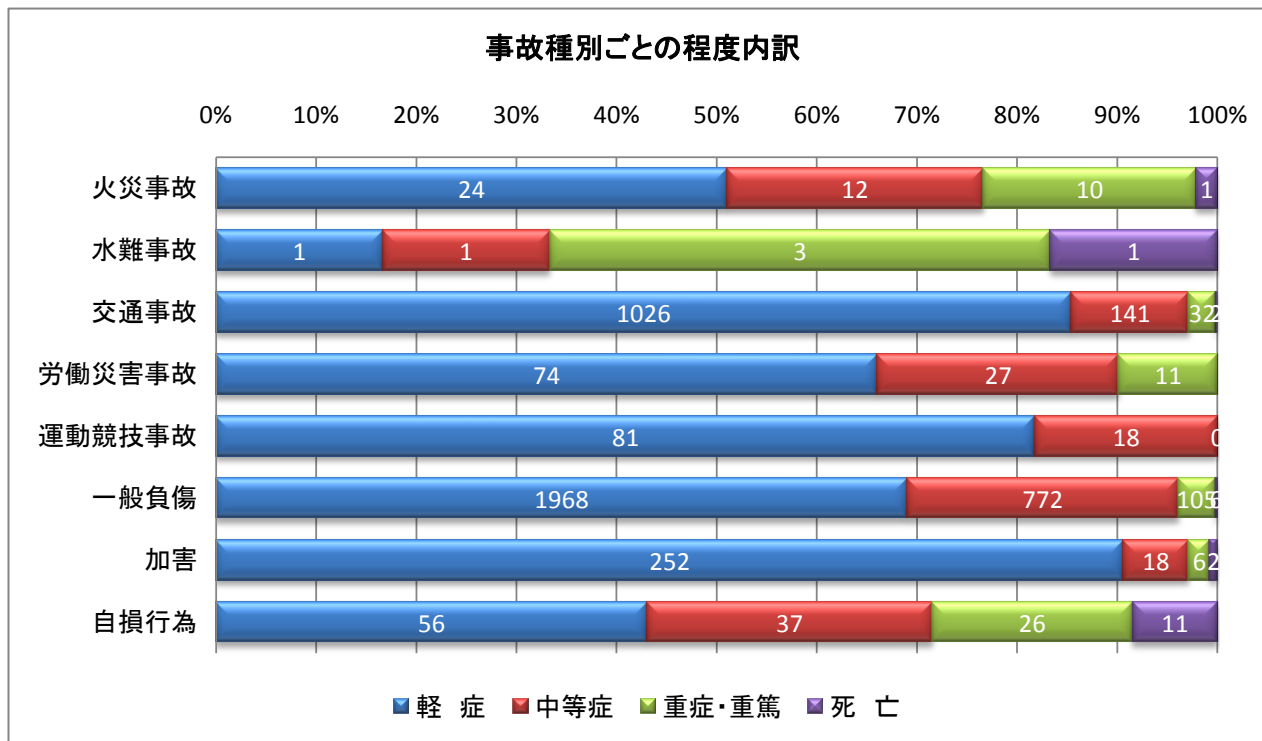
少年は、他の年齢層と比べて、運動競技事故や火災事故のリスクが高くなっています。

成人は、他の年齢層と比べて、加害事故、自損事故、労働災害事故のリスクが高くなっています。



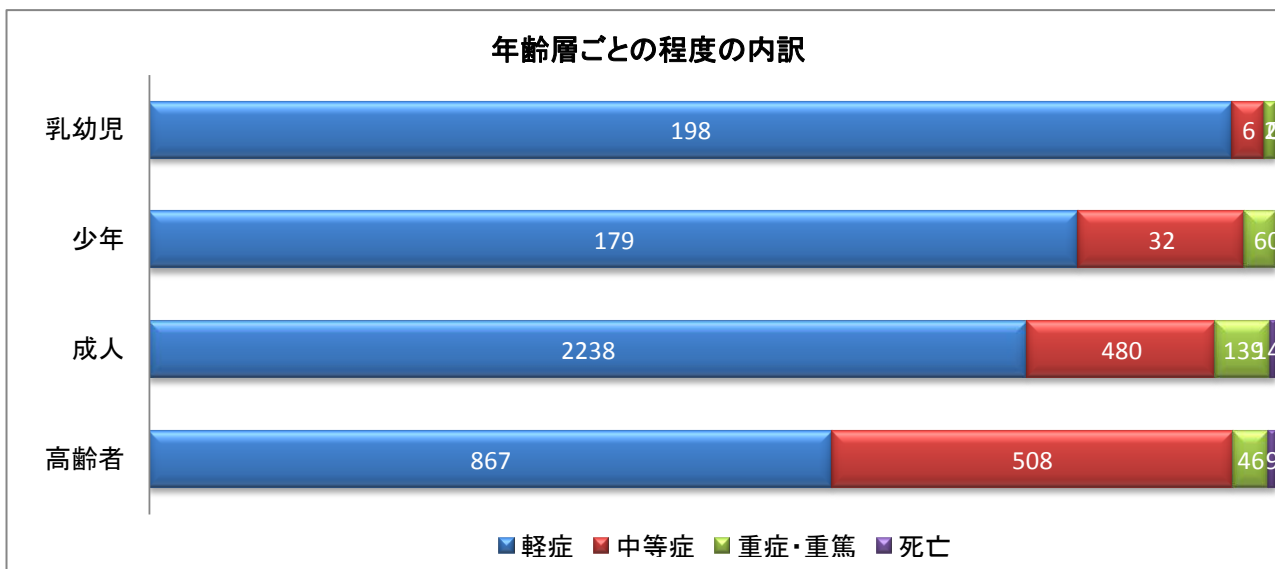
◆ 事故種別ごとの重症化傾向の把握

死亡のリスクが最も高い事故は、水難事故(17%)で、次いで自損行為(8%)となっています。  
重症以上のリスクが高い事故は、水難事故、自損行為、火災事故の順になっています。



◆ 年齢層ごとの重症化傾向の把握

年齢が上がるにつれて、重症化する傾向がみられます。  
死亡のリスクが最も高いのは高齢者(0.6%)、次いで成人(0.5%)となっています。  
重症以上のリスクが最も高いのは成人(5.3%)、次いで高齢者(3.9%)となっています



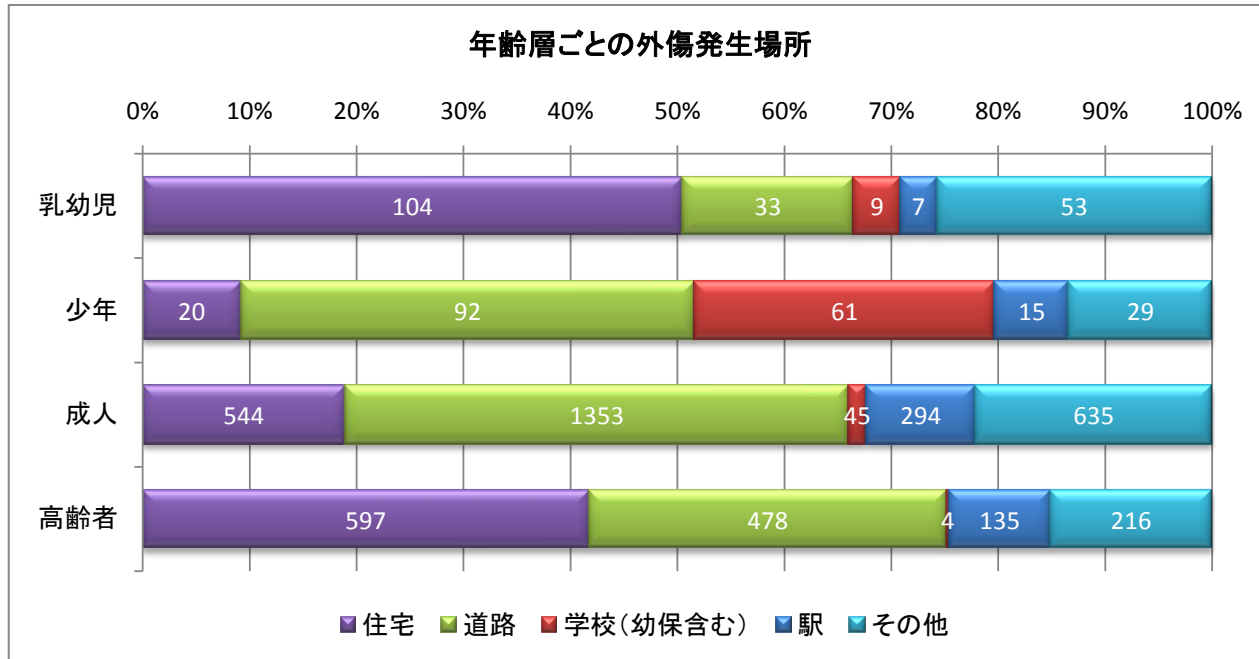
◆ 年齢層ごとの発生場所分析

乳幼児は、住宅での発生が第1位で50%を占めています。

少年は、第1位が道路(42%)、第2位が学校(28%)となっています。

成人は、第1位が道路(47%)、第2位がその他(22%)となっています。

高齢者は、第1位が住宅(42%)、第2位が道路(33%)となっています。



◆ 年齢層ごとの受傷原因分析

すべての年齢層で共通した傾向として、創傷と交通事故が多くなっています。

乳幼児は、墜落・転落と異物・誤飲の割合が高くなっています。

少年は、交通事故の割合が高く、熱傷の割合も高めです。

成人は、薬物中毒の割合が目立って高くなっています。

高齢者は、創傷が大半を占め、その他では、交通事故、墜落・転落、異物・誤飲も目立ちます。

